

仙人通信 122 釜無山(2117m)・大河原湿原

釜無山は、富士川の上流である釜無川の源流を東側に、山梨と長野の県境に鎮座する山である。入梅の雨の晴れ間を見つけて、大河原湿原の駐車場から林道を辿るコースをピストンした。芽吹いたばかりのカラマツにサルオカゼ・そして霧が棚引く中、カッコウ・ウグイス・ホトギスが競い合い鳴く別天地だ。足元では茶色い斑点を羽に、何匹ものクモマベニヒカゲが、道案内を買ってくれるかのように乱舞する。林道の両側には、白いへびイチゴ・ハコベの仲間のフスマだ。そんな林道を35分程進むとカラマツの貯木場があり、先のカーブを曲がると赤い物が目に入る。釜無川に注ぐ小さな沢があり、水辺に見事に咲いたクリンソウだ。紫の大きな花卉の桜スミレも加わった。両手でチョロチョロと滴る沢の水を受けて、源流の水を味わう『うまい!』。足元の岩は比較的密度の高い石灰質の岩のようだ。雨乞山との中間を成す釜無川は、戸台から仏像構造線が走っているという。即ち中央構造線と仏像構造線に挟まれた秩父層が、釜無山と入笠山を形成していることに成る。又中央高速に並んで糸魚川―韭崎―静岡構造線も走る所でもある。更に10分程進むと林道は通号止めのゲートとなり、右手に釜無山への道標だ。カラマツ林の中の登山コースの始まりだ。訪れる人が少ないためかコースは笹で覆われ、踏み後を探すのも大変だ。15分程で四方に道があるかのような最初のピークだ。中央の道を進むと『無と山』が辛うじて判る道標を見つけた。5分程で笹の原に保安林を示す菱形の橙色の標識だ。直進方向は、踏み後がしっかりしているも、コースは笹で覆われた右側でないかと思われ立ち止まった。周囲を確認すると1m程先の笹に小さな赤いテープが括り付けられているのを発見して、笹で覆われた踏み後を探し、50m程進むとカラマツ林の登りとなり、釜無山の道標を見つけ一安心(ほ!)。足元では芽吹いたマイズルソウに白い花芽が付き始めている。小さなピークを越えるとダケカンバが笹原に目立つようになり、プロムナードのコースとなる。駐車場から90分で山頂に到着だ。山頂を示す標識にはサルオカゼが付着し、釜無山山頂の文字を飾る。カッコウ・ウグイスの声を聴きながら、しばしの休憩だ。視界の利かない山と聞いていたが、入笠山以外は霧に包まれ、何も望めなかった。帰路は、来た道大河原湿原の駐車場まで戻り、湿原を時計廻りで散策である。スダヤクシュ・ヤマキンポウゲ・白いウメバチソウ?・沢沿いでは白いオドリコソウ・ピンクのクガイソウ・オレンジのレンゲツツジ・白いズミ・綿菅に似たミネガラシが湿原を覆う。静かさの中、常に小鳥たちの歌声を聴き、のんびり約4時間(20000歩)、別世界のような山旅を味わう事ができました。そうそう富士見のスキー場近く、標高1000m地点で真正面に八ヶ岳から蓼科山までを望む事ができ、富士山より高かった八ヶ岳や五日市まで続く仏像線等、造山活動のジオラマを想像し楽しいひと時を憩い、家路につきました。(h26. 6. 26)

釜無山山頂



サルオカゼ



クガイソウ

